

2020年12月期 通期決算

(決算補足説明資料)

2021年3月 株式会社キッツ

【注意事項】

本資料に記載されている当社及び連結子会社の計画、戦略及び業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、さまざまな要因により、見通し等と異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。



目次

1 2020年12月期決算の概要

2 2021年12月期計画

3 最近のトピックス

-補足データ-

1 2020年12月期決算の概要

2 2021年12月期計画

3 最近のトピックス

－補足データ－

決算期変更について

2020年12月期より、決算期を3月末から12月末に変更。2020年12月期は、9ヵ月の変則決算となった。

2020年3月期(前年同期 第3四半期累計):国内グループ会社(4-12月) + 海外グループ会社(1-9月)

2020年12月期 : 国内グループ会社(4-12月) + 海外グループ会社(4-12月)

海外グループ会社の2020年1-3月の損益については、利益剰余金の増減として調整。

年	2020年3月期				2020年12月期			
月	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12
3月決算会社 (国内Gr会社)		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
12月決算会社 (海外Gr会社)	Q1	Q2	Q3	Q4		Q1	Q2	Q3

前年同期(第3四半期累計)

当期(短信ベース)

2020年12月期業績(9ヵ月)

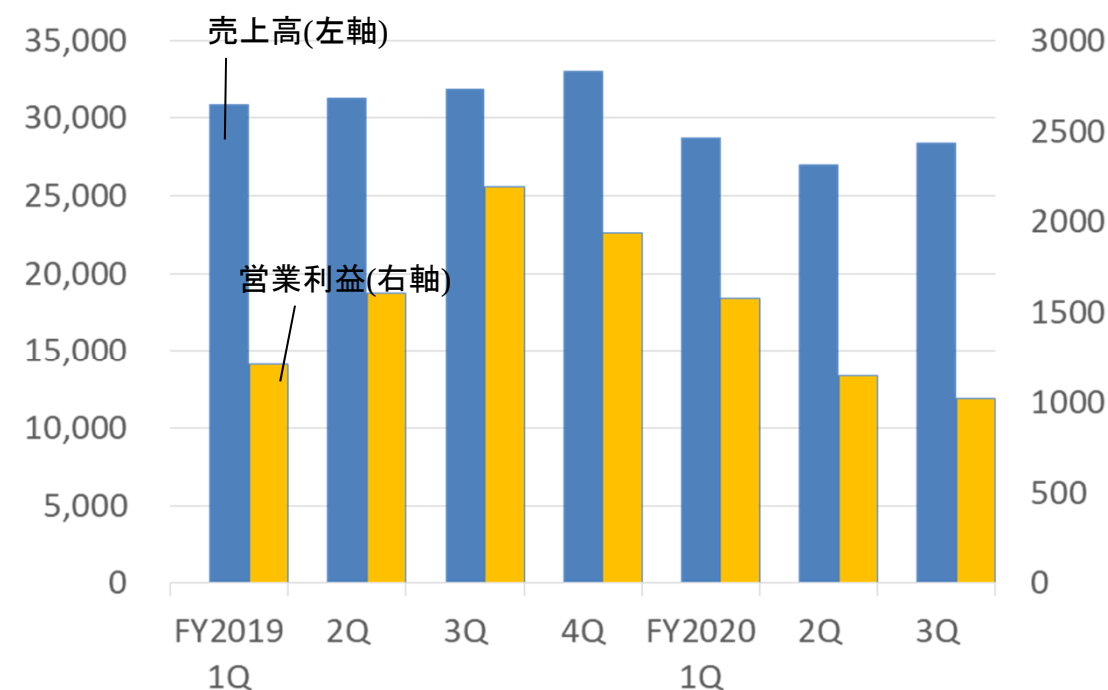
単位(百万円)

	2020年 3月期 3Q実績	2020年 12月期 計画(9ヵ月)	2020年 12月期 実績(9ヵ月)	対前期		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	94,083	82,500	84,245	▲9,837	▲10.5%	1,745	2.1%
内、バルブ事業	75,792	68,800	70,129	▲5,662	▲7.5%	1,329	1.9%
内、伸銅品事業	15,912	12,600	12,952	▲2,959	▲18.6%	352	2.8%
営業利益 (率)	5,010 (5.3%)	3,300 (4.0%)	3,751 (4.5%)	▲1,259	▲25.1%	451	13.7%
内、バルブ事業	7,666	6,340	6,708	▲958	▲12.5%	368	5.8%
内、伸銅品事業	30	▲230	▲146	▲177	—	84	—
経常利益	4,842	3,000	3,169	▲1,672	▲34.5%	169	5.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,494	2,000	2,113	▲1,380	▲39.5%	113	5.7%
ドル:対円	109.22	107.00	105.55				
ユーロ:対円	122.36	125.00	122.60				
電気銅建値:円/トン	689,000	700,000	714,000				

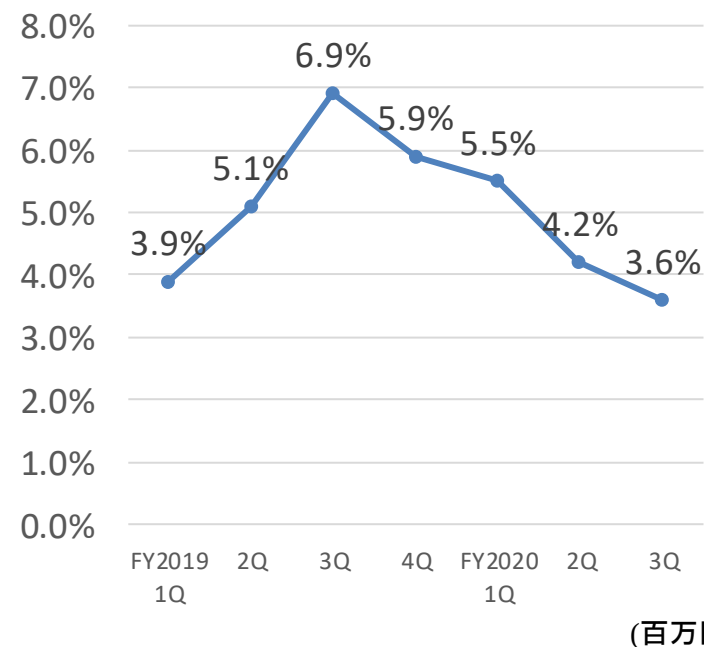
注) 売上高及び営業利益は、バルブ事業と伸銅品事業のみを表示しておりますが、合計はその他を含む連結合計であるため、一致していません。

四半期(3ヵ月)業績推移

(百万円) 売上高/営業利益



営業利益率

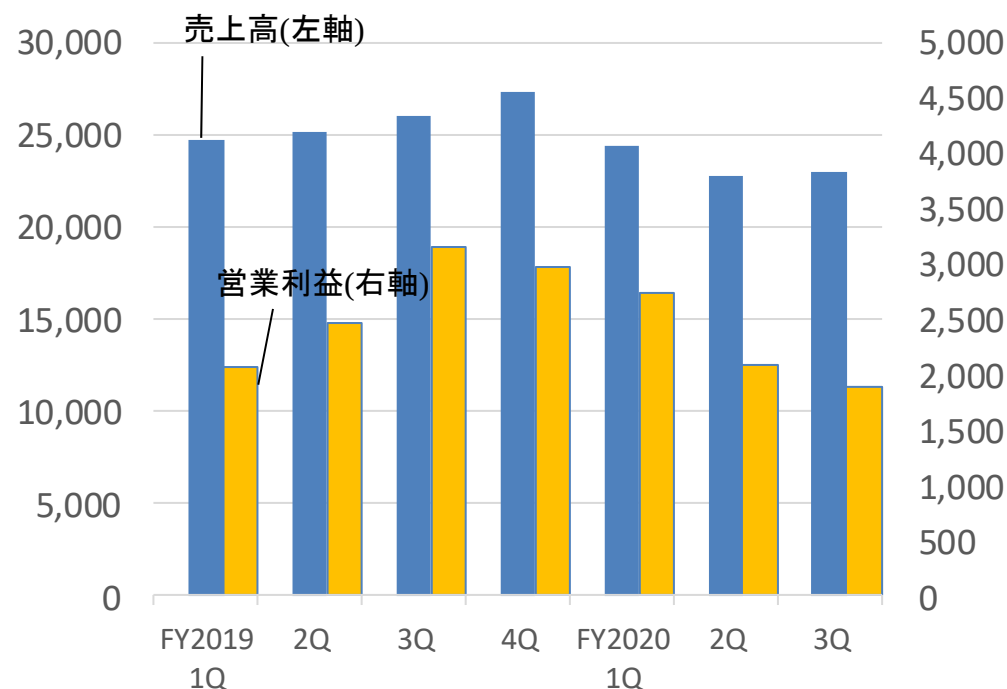


	2020年3月期				2020年12月期		
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
売上高	30,879	31,319	31,884	33,007	28,745	27,054	28,446
営業利益	1,208	1,607	2,194	1,939	1,580	1,148	1,023
経常利益	1,210	1,523	2,108	2,399	1,363	1,076	730
親会社株主に帰属する 当期純利益	842	1,190	1,461	1,442	839	837	437
営業利益率	3.9%	5.1%	6.9%	5.9%	5.5%	4.2%	3.6%

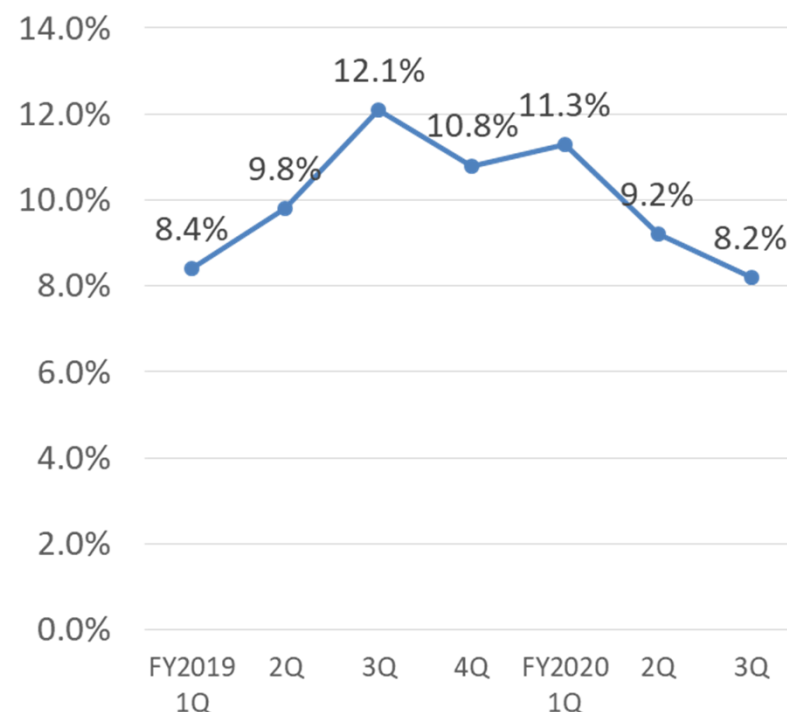
バルブ事業 四半期(3ヵ月)業績推移

KITZ

(百万円) 売上高/営業利益



営業利益率



(百万円)

	2020年3月期				2020年12月期		
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
売上高	24,682	25,077	26,031	27,322	24,322	22,799	23,006
営業利益	2,064	2,459	3,141	2,960	2,739	2,091	1,877
営業利益率	8.4%	9.8%	12.1%	10.8%	11.3%	9.2%	8.2%

バルブ事業 国内売上高(市場別)

前期比25億67百万円(5.3%)減の457億39百万円。建築設備向けについては、市中在庫はやや高い水準だが、実需は2Qを底に徐々に回復。足元はコロナ禍により不透明な状況。工業用バルブ市場については、医薬品等一部の産業を除き、設備投資が低迷しているが、メンテナンス需要は堅調。水市場向けは、東京都向けを中心に好調を維持。半導体製造装置向けは、2Qは若干踊り場であったが、装置メーカーからの受注が堅調であり、3Qは回復傾向。

単位(億円)

	2020年 3月期 3Q実績	1Q	2Q	3Q	2020年 12月期 実績(9ヵ月)	対前期	
						増減額	増減率
国内 合計	483	156	150	152	457	▲26	▲5%
建築設備	203	62	60	61	183	▲20	▲10%
水関連	61	17	21	24	62	1	2%
半導体関連	45	18	16	19	53	8	18%
機械装置関連	54	17	16	15	48	▲6	▲11%
石油精製・石油化学	50	17	15	14	46	▲4	▲8%
一般化学	21	6	7	6	18	▲3	▲14%
食品・製紙	17	5	5	5	15	▲2	▲12%
ガス・電力	16	5	5	5	14	▲2	▲12%
大型プロジェクト物件	16	9	5	4	18	2	12%

注) 国内の各市場別の売上は当社推定値を示します。億円単位で表示しているため、累計・合計が一致しない場合があります。

バルブ事業 海外売上高(エリア別)

前年同期比30億95百万円(11.3%)減の243億89百万円。中国・韓国の半導体製造装置向けは、国内と同じく、2Qは踊り場であったが、3Qは回復。新型コロナウイルス感染症拡大により、全エリアで受注が低迷。米州・欧州は、原油安に伴うOil&Gas関連需要の低迷により減収だが、南米MGAはコロナ禍においても健闘。アセアンは、各国で経済活動の本格再開が見通せず、減収。中国は、新型コロナウイルス感染症収束後、市況が回復し、データセンター向けを中心に、好調を維持。

単位(億円)

	2020年 3月期 3Q実績	1Q	2Q	3Q	2020年 12月期 実績(9ヵ月)	対前期	
						増減額	増減率
海外 合計	275	87	78	78	244	▲31	▲11%
アセアン・韓国他	103	35	30	29	96	▲7	▲7%
(内、半導体向け)	(12)	(8)	(5)	(6)	(19)	(7)	58%
中国	52	18	18	18	53	1	2%
(内、半導体向け)	(10)	(3)	(2)	(3)	(8)	(▲2)	▲20%
中東	6	2	1	1	4	▲2	▲33%
アジア計	161	56	48	48	152	▲9	▲5%
米州(北米、中南米)	80	21	21	21	63	▲17	▲21%
欧州・その他	34	10	9	9	29	▲5	▲15%

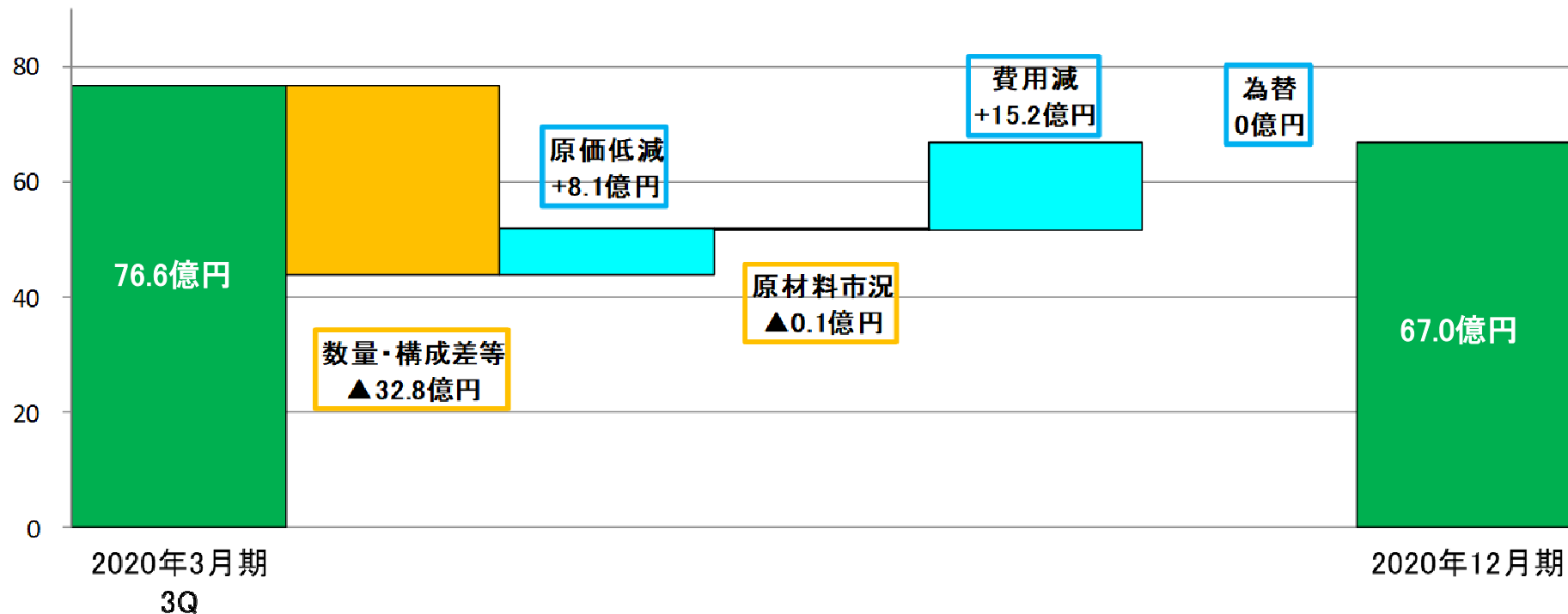
注) 海外の大型プロジェクト物件の数値は、アジアの売上に含みます。億円単位で表示しているため、累計・合計が一致しない場合があります。

バルブ事業 営業利益増減要因

単位(百万円)

	2020年 3月期 3Q実績	2020年 12月期 計画(9ヵ月)	2020年 12月期 実績(9ヵ月)	対前期		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	75,792	68,800	70,129	▲5,662	▲7.5%	1,329	1.9%
営業利益	7,666	6,340	6,708	▲958	▲12.5%	368	5.8%

億円



伸銅品事業の概要

■売上高について

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う需要低迷により、販売量・生産量とも大きく減少したが、2Qで底打ちし、3Qは回復した。原材料相場は、上昇傾向が継続。売上高は前年同期比18.6%減の129億52百万円。

■営業利益について

販売量減少の影響が大きく、また新製造ライン稼働により減価償却費が増加したことから、1億46百万円の営業損失（前年同期は30百万円の営業利益）。

単位(百万円)

	2020年 3月期 3Q実績	2020年 12月期 計画(9ヵ月)	2020年 12月期 実績(9ヵ月)	対前期		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	15,912	12,600	12,952	▲2,959	▲18.6%	352	2.8%
営業利益	30	▲230	▲146	▲177	—	84	—
電気銅建値:円/トン	689,000	700,000	714,000				



黄銅棒とその加工品



キッツメタルワークス 新工場

その他の概要

■売上高について

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、4月から5月にホテルを臨時休業したことや、8月の花火大会中止及びサービスエリアの利用客減少等により、前年同期比51.1%減の11億63百万円。

■営業利益について

2億54百万円の営業損失となった（前年同期は78百万円の営業利益）。

単位(百万円)

	2020年 3月期 3Q実績	2020年 12月期 計画(9ヵ月)	2020年 12月期 実績(9ヵ月)	対前期		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	2,378	1,100	1,163	▲1,215	▲51.1%	63	5.7%
営業利益	78	▲250	▲254	▲332	—	▲4	—



長野県諏訪市のホテル紅や

連結営業外・特別損益の状況

単位(百万円)

	2020年 3月期 3Q実績	2020年 12月期 実績(9ヵ月)	増減額	主な内訳
営業利益	5,010	3,751	▲1,259	
■営業外収益	496	636	139	コロナ関連助成金 +196
■営業外費用	665	1,217	552	為替差損 +387 伸銅品事業 デリバティブ評価損 +212
経常利益	4,842	3,169	▲1,672	
■特別利益	371	237	▲133	投資有価証券売却益 前期 357 → 当期 164
■特別損失	92	167	75	ホテル紅や 臨時休業損失 35
税金等調整前当期純利益	5,120	3,239	▲1,881	
法人税等	1,581	1,112	▲468	
当期純利益	3,539	2,126	▲1,412	
非支配株主に帰属する当期純利益	44	12	▲31	
親会社株主に帰属する当期純利益	3,494	2,113	▲1,380	

バランスシートの状況

減収による売上債権の減少等はあったが、社債100億円の発行等により、資産合計は56億18百万円増加。

■流動資産:現金及び預金の増加 150億23百万円 売上債権の減少 33億34百万円 棚卸資産の減少 17億37百万円

■固定資産:有形固定資産の減少 19億37百万円 無形固定資産の減少 14億28百万円

■負債:支払手形及び買掛金の減少 15億95百万円 社債の増加 97億62百万円

■有利子負債は、102億5百万円増加し、493億52百万円。(純有利子負債は48億18百万円減少し、156億32百万円)。

■純資産は、配当金の支払、自己株式の取得17億56百万円、為替換算調整勘定の減少13億67百万円等により、17億11百万円減少。

単位(百万円)

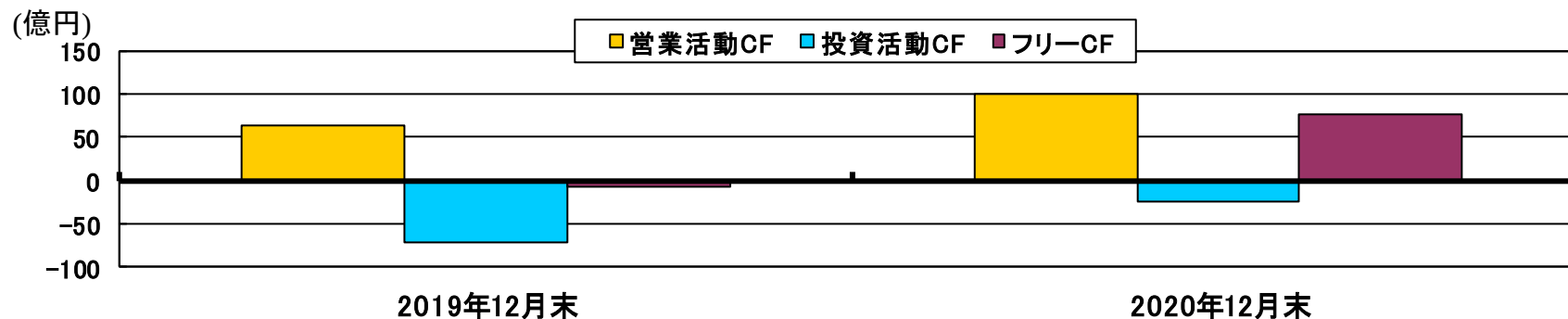
資産の部	2020年 3月末	2020年 12月末	増減額	負債の部	2020年 3月末	2020年 12月末	増減額
流動資産	73,351	81,765	8,414	流動負債	25,036	23,332	▲1,704
固定資産	61,712	58,916	▲2,795	固定負債	33,147	42,182	9,034
有形固定資産	44,241	42,303	▲1,937	負債合計	58,184	65,514	7,330
無形固定資産	7,639	6,211	▲1,428	純資産合計	76,879	75,167	▲1,711
投資等	9,831	10,401	570	負債・純資産 合計	135,063	140,681	5,618
資産合計	135,063	140,681	5,618				

キャッシュ・フローの状況

- 営業活動CF: 税金等調整前当期純利益32億39百万円、減価償却費49億54百万円、売上債権の減少23億84百万円。仕入債務の減少10億71百万円等があったが、100億24百万円の資金の増加。
- 投資活動CF: 有形固定資産の取得による支出28億76百万円等により、23億79百万円の資金の減少。
- フリーCF: 前年同期▲6億85百万円から、76億45百万円と大幅に改善。
- 財務活動CF: 社債の発行による収入99億32百万円、長短期借入金の調達及び返済による純増額8億22百万円。配当金の支払13億77百万円、自己株式の取得による支出等があったが、74億97百万円の資金の増加。

単位(百万円)

	2019年12月末	2020年12月末	増減額	増減率
営業活動CF	6,377	10,024	3,646	57.2%
投資活動CF	▲7,063	▲2,379	4,684	—
フリーCF	▲685	7,645	8,331	—
財務活動CF	▲1,628	7,497	9,126	—
現金等期末残高	10,312	33,364	23,052	223.5%



1 2020年12月期決算の概要

2 2021年12月期計画

3 最近のトピックス

－補足データ－

決算期変更と前期比較について

年	2020年12月期				2021年12月期			
月	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12
3月決算会社 (国内Gr会社)		Q1	Q2	Q3	Q1	Q2	Q3	Q4
12月決算会社 (海外Gr会社)		Q1	Q2	Q3	Q1	Q2	Q3	Q4

前年同一期間
2020年1～12月（同月連結、非監査）

2021年12月期 計画
（同月連結）

2021年12月期計画

単位(百万円)

	2020年12月期 実績 (12ヵ月)	2021年12月期 計画				
		1Q～2Q (上期計画)	3Q～4Q (下期計画)	通期	対前期	
					増減額	増減率
売上高	115,139	56,250	60,750	117,000	1,861	1.6%
営業利益 (率)	5,329 (4.6%)	1,600 (2.8%)	4,100 (6.7%)	5,700 (4.9%)	371	7.0%
経常利益 (率)	5,372 (4.7%)	1,450 (2.6%)	3,950 (6.5%)	5,400 (4.6%)	28	0.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (率)	3,365 (2.9%)	950 (1.7%)	2,450 (4.0%)	3,400 (2.9%)	35	1.0%
ROE	4.5%	—	—	4.5%	—	—
EPS	37.23円	—	—	37.92円	0.7円	1.9%
ドル:対円	106.44			104.00		
ユーロ:対円	121.97			126.00		
電気銅建値:円/トン	700,000			850,000		

セグメント別計画

単位(百万円)

売上高	2020年12月期			2021年12月期		
	1月～6月 (上期実績)	7月～12月 (下期実績)	通期実績	1Q～2Q (上期計画)	3Q～4Q (下期計画)	通期計画
バルブ事業	49,530	45,806	95,336	45,500	49,500	95,000
伸銅品事業	9,416	8,686	18,102	9,900	9,700	19,600
その他	693	1,007	1,700	850	1,550	2,400
計	59,639	55,499	115,139	56,250	60,750	117,000

単位(百万円)

営業利益	2020年12月期			2021年12月期		
	1月～6月 (上期実績)	7月～12月 (下期実績)	通期実績	1Q～2Q (上期計画)	3Q～4Q (下期計画)	通期計画
バルブ事業	5,338	3,968	9,306	3,400	5,600	9,000
伸銅品事業	▲201	16	▲185	140	260	400
その他	▲236	▲108	▲344	▲120	140	20
調整額	▲1,743	▲1,707	▲3,449	▲1,820	▲1,900	▲3,720
計	3,159	2,170	5,329	1,600	4,100	5,700

バルブ事業 事業環境見通しと施策

【国内】

- 緩やかな回復傾向にあるものの、コロナ禍による企業業績の悪化、先行きの不透明感から、設備投資意欲は低く、緩慢な回復ペースが継続する見通し。
- 工業用バルブ市場については、コロナ禍にあっても、プラント等のメンテナンス需要は堅調であり、パーツ販売、調節弁の拡販等、MROビジネスの拡大を図る。
- 半導体市場は、国内外において中長期的な成長が見込まれ、データセンター、5G通信施設、EC拡大を受けた物流施設等、デジタル需要を背景とした投資が拡大する見込み。
- 第4期中計における重点弁種である、バタフライバルブ、ダクタイルバルブ、自動操作バルブに加え、ステンレス製ボールバルブのシェアアップ、拡販に注力する。

【海外】

- 新型コロナウイルスは、第二波・第三波となって、各国で感染拡大を続けており、その影響は2021年上期中継続することも予測される。
- 中国を除く全地域で回復ペースが鈍い中、国内と同じく、データセンター等の需要取り込みに注力。
- 中国・韓国向け半導体市場は、国内と同じく成長が見込まれる。
- アセアンのミドルゾーン（中価格帯市場）への参入については、資本業務提携先であるマレーシア Unimechとのシナジー効果創出に加え、現地ニーズに沿った製品開発・販売を図る。
- 北米は、Oil&Gas関連需要が低迷し、厳しい状況だが、大手代理店とのグローバル契約を活かして拡販を図る。
- 欧州は、コロナ禍による経済低迷で、厳しい状況が続く見通し。

バルブ事業 国内売上計画(市場別)

単位(億円)

	2020年12月期 実績 (12ヵ月)	2021年12月期 計画	増減額	増減率
日本計	625	618	▲7	▲1%
建築設備	253	253	—	—
水関連	83	86	3	4%
半導体関連	70	76	6	8%
機械装置関連	66	65	▲1	▲1%
石油精製・石油化学	64	60	▲4	▲6%
一般化学	24	24	—	—
食品・製紙	20	20	—	—
ガス・電力	20	20	—	—
大型プロジェクト物件	25	14	▲11	▲44%

注) 1 各市場で採用されるバルブの材質、形状の変化やトレンドを考慮し、2018年度より各市場に集計する製品群の一部を見直ししております。

注) 2 億円単位で表示しているため、累計・合計が一致しない場合があります。

注) 3 決算期変更の移行期間となる2020年12月期は4～12月の9ヵ月決算であったため、2020年12月期実績には、参考値として、1～12月(12か月・非監査)の数値を表示しています。

バルブ事業 海外売上計画(エリア別)

単位(億円)

	2020年12月期 実績 (12ヵ月)	2021年12月期 計画	増減額	増減率
海外 合計	326	332	6	2%
アセアン・韓国他	125	129	4	3%
(内、半導体向け)	(24)	(28)	(4)	16%
中国	70	76	6	8%
(内、半導体向け)	(10)	(15)	(5)	50%
中東	5	5	—	—%
アジア計	200	210	10	5%
米州(北米、中南米)	87	87	—	—%
欧州・その他	39	35	▲4	▲10%

注) 1 億円単位で表示しているため、累計・合計が一致しない場合があります。

注) 2 決算期変更の移行期間となる2020年12月期は4～12月の9ヵ月決算であったため、2020年12月期実績には、参考値として、1～12月(12ヵ月・非監査)の数値を表示しています。

バルブ事業 営業利益計画 増減要因

単位(百万円)

	2020年12月期 実績 (12ヵ月)	2021年12月期 計画	増減額	増減率
営業利益	9,306	9,000	▲306	▲3.3%



伸銅品事業、その他の事業計画

伸銅品事業

- 銅価格前提:85万円/トン(前期銅建値平均価格 70万円/トン)
- 黄銅棒国内需要は、前期比7%増と見込む。新型コロナウイルスの影響が継続すると予測するが、環境対応材料(鉛レス材、カドミレス材)等の拡販に注力。
- 新製造ライン稼働による生産性向上、歩留まり向上、材料費低減を中心にコストダウンに取り組む。

単位(百万円)

		2020年12月期 実績(12ヵ月)	2021年12月期計画	増減額	増減率
伸銅品 事業	売上高	18,102	19,600	1,498	8.3%
	営業利益	▲185	400	585	—

その他

新型コロナウイルス感染症の影響は、秋頃まで続く予想するが、収益に影響を与えるGo Toトラベルキャンペーンの再開時期や延長の有無、東京オリンピック・パラリンピックの有無など、先が見通せない1年となる。経費削減、本館(8階、9階)改修に伴う価格見直し等により、黒字化を目指す。

単位(百万円)

		2020年12月期 実績(12ヵ月)	2021年12月期計画	増減額	増減率
その他	売上高	1,700	2,400	700	41.2%
	営業利益	▲344	20	364	—

設備投資・減価償却費計画

<設備投資計画>

単位(億円)

	2020年12月期 実績(12ヵ月)	2021年12月期 計画
設備投資	39	57

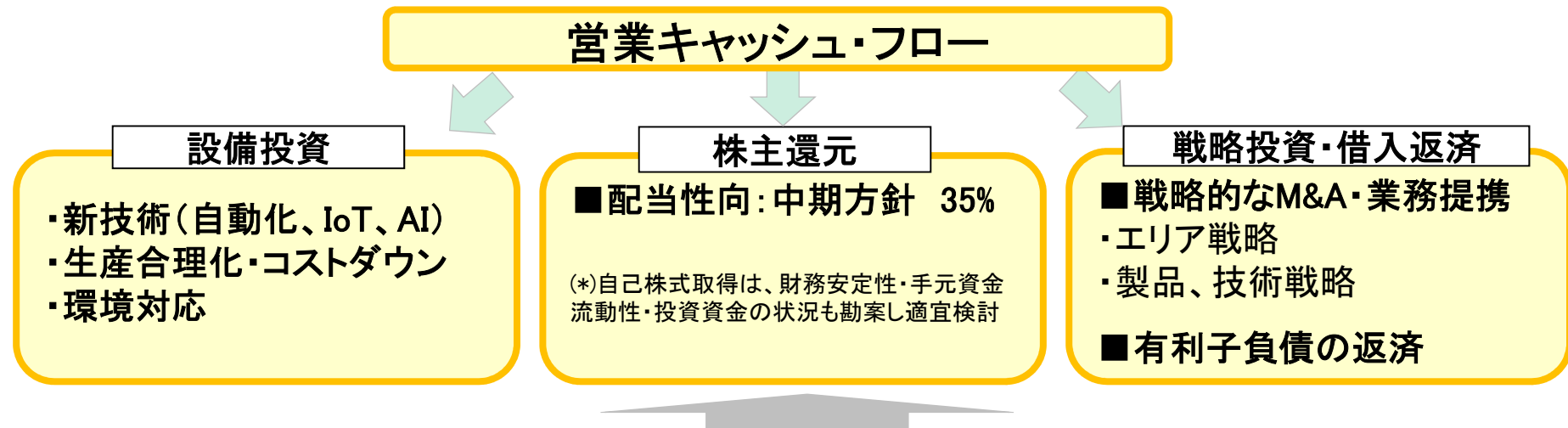
<減価償却費計画>

単位(億円)

	2020年12月期 実績(12ヵ月)	2021年12月期 計画
減価償却費	68	68

財務戦略・資本政策

- 第4期中計の財務戦略・資本政策をベースに、2021年度は有事モードを継続。CF創出を重視し増加した有利子負債の縮減等、財務安定性を図るとともに、アフターコロナを睨み、中長期の戦略投資の為に借入余力の確保並びに社債償還に備える。
- 手元流動性の確保：連結月商の3ヵ月程度（銀行借入金のコミットメントラインを含む）
- 投資計画：合理化、開発・IT投資、設備の維持更新を中心に実施（償却費の範囲内の見込み）。



< 第4期中期経営計画方針 >

- 最適資本構成の確保
- 機動的な資金調達

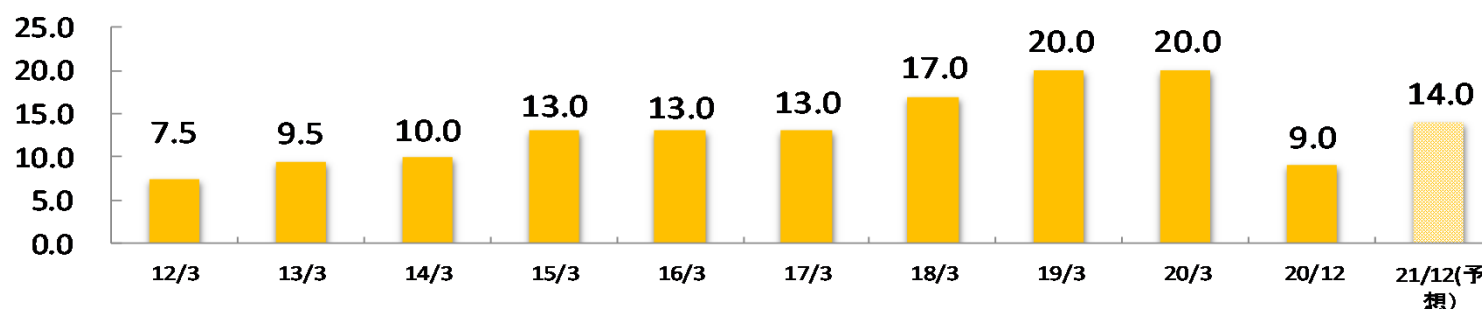
- 中長期的なROE目標：2030年ビジョン 12%
- リスク対応：自己資本比率目標 55%～60%程度（2020年12月FC 53%）
銀行からの短期借入金コミットメントライン 135億円(2021年2月)
- 社債格付：A格維持（現状格付：R&I → A- [20年12月]；JCR → A [20年10月]）
社債発行予備格付(R&I)：A-（200億円；2020年10月～2022年10月）

株主還元方針

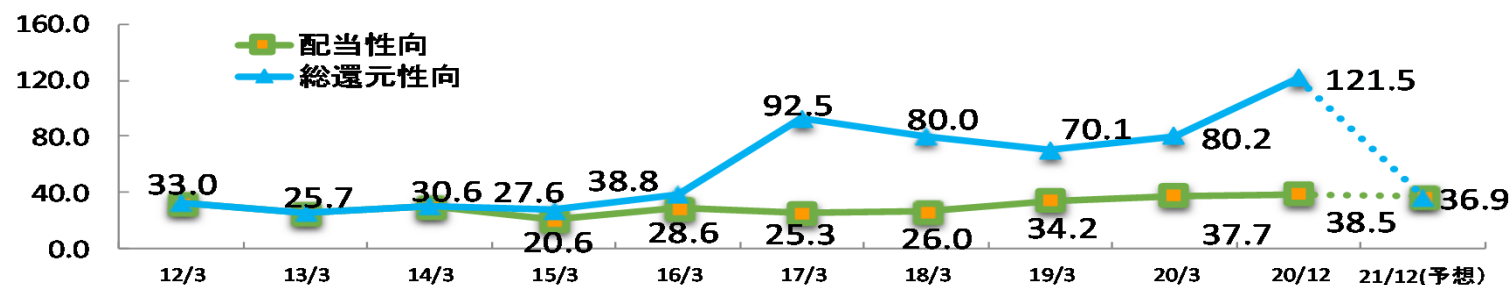
配当性向は、親会社株主に帰属する当期純利益の35%前後を望ましい水準と考えている。2020年12月期は、1株当たり年間(9ヵ月)9円(第2四半期5円、期末4円)の配当とし、連結配当性向は、38.5%、総還元性向は121.5%となる。

2021年12月期については、1株当たり年間14円(第2四半期5円、期末9円)の配当予想とし、連結配当性向は36.9%の見込み。

<年間配当金推移>



<配当性向、総還元性向推移>



1 2020年12月期決算の概要

2 2021年12月期計画

3 最近のトピックス

－補足データ－

国内販売価格改定(値上げ)を実施

■2021年3月1日 国内販売価格の改定を発表

原材料の他、部品・副資材及び物流費用の高騰により、経営環境は厳しさを増している。生産性の向上や合理化などによる徹底したコストダウン・諸経費の削減に取り組んでいるが、企業努力のみでの価格維持は困難な状況となったため。

➤改定時期：2021年 4月 1日より

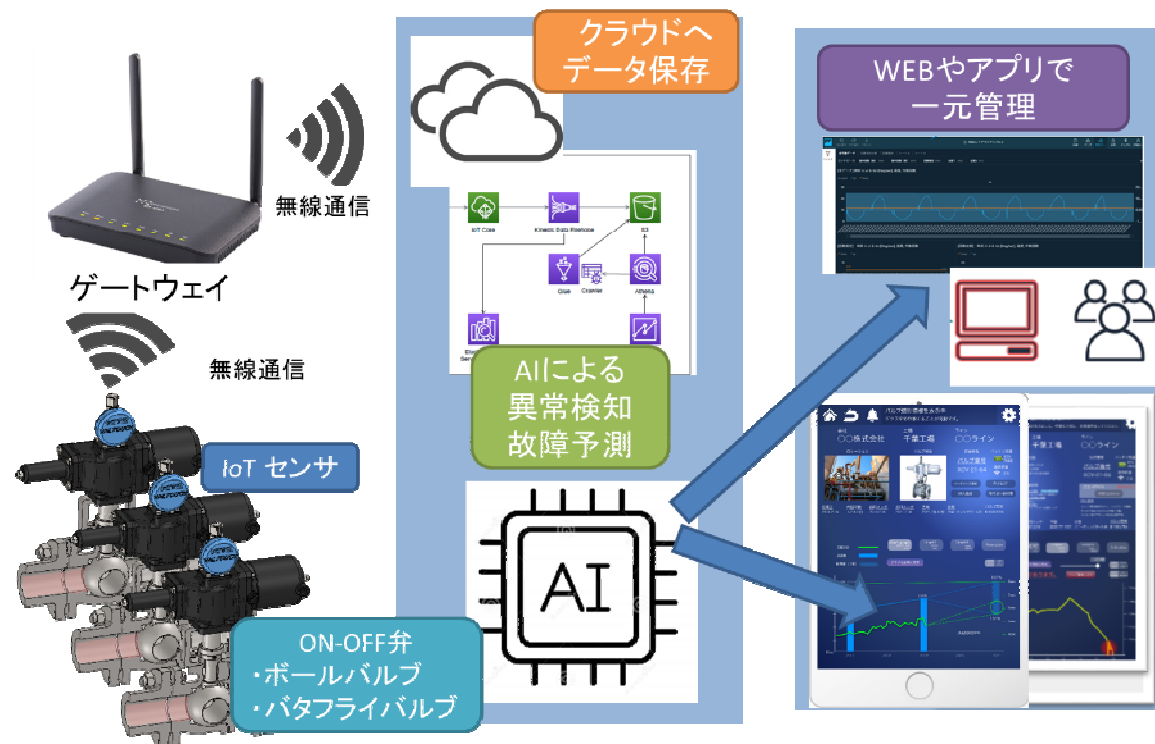
➤改定率：5～20%

AI・IoTを活用したバルブメンテナンスソリューション開発について

AI、IoTの活用により、バルブの状態を把握し、故障などの状態予測ができないかという観点から、ソリューション開発を進めている。

角速度からバルブの状態予測と異常検知を行うため、IoTセンサをバルブに後付けし、無線でデータをクラウドに収集し、解析するシステムを開発中。ユーザーは、タブレットなどで状態の確認が可能。

現在、ユーザーの協力を得て、複数の流体でデータを取得する活動を始めており、取得したデータをAIに学習させ、状態予測と異常検知のアルゴリズム作成を目指す。

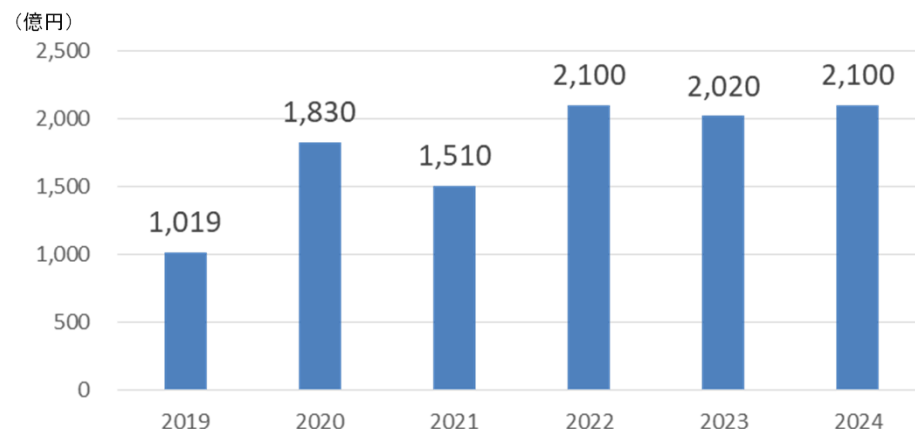


データセンター向け戦略について①

国内・海外市場で、設備投資意欲が低迷する中、中長期の成長が見込まれるデータセンター（以下、DC）市場向け需要取り込み・拡販に注力していく。

■国内データセンターの建設見込み

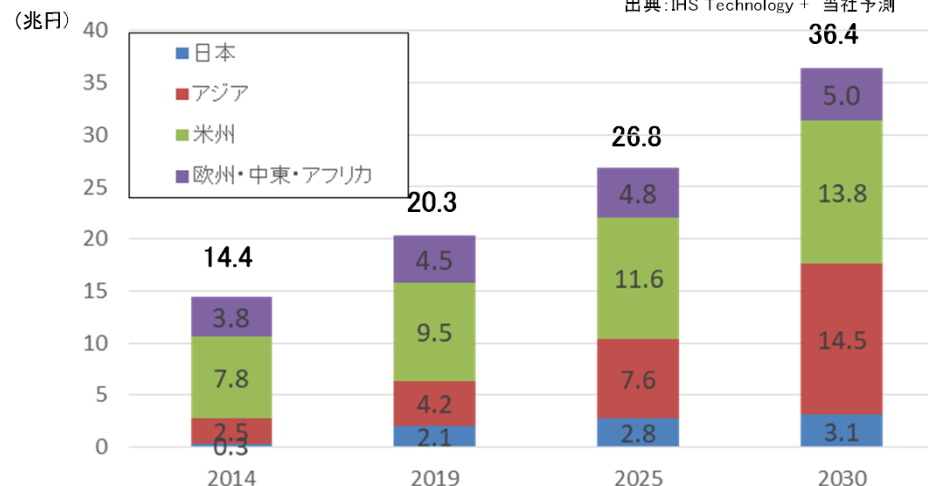
出典: IDC Japan



国内市場では、2020年は首都圏を中心に複数のクラウドサービス向けDCが建設された。2021年は若干の反動減となる見通しだが、2022年以降は、2000億円／年以上の投資規模が見込まれる。うち、バルブが主に設置される空調・冷却設備の市場規模は、約800億円と推定。

■地域別データセンター・サービス需要(売上)市場規模 予測

出典: IHS Technology + 当社予測



クラウドコンピューティング、5Gによるビッグデータ化等により、市場(DC関連サービス売上)規模は、世界的に拡大が続く。

2025年以降、アジア地域の急成長が見込まれる。

日本の市場規模は、世界の約1割と推定。

データセンター向け戦略について②

■データセンターの構成要素

災害に耐える 建築構造	空調・冷却設備	万全のセキュリティ
非常時の 電力供給設備	ネットワークの 冗長性	ラックのスペックと コストパフォーマンス

6つの構成要素のうち、バルブが主に関連する分野

- ✓ 空調・冷却設備
- ✓ 衛生設備
- ✓ 消防設備
- ✓ 非常用電源供給設備



- ✓ DCでは、機器の冷却に最も多くの電力を消費しており、空調・冷却設備の効率化が重要となる。
→空調・冷却設備に数多く使用されるバタフライバルブのラインナップ拡充、拡販に注力。
- ✓ 非常用電源供給設備向けについても、製品開発に取り組む。
- ✓ 海外市場向けについては、中国では既に多数の実績があるが、他エリアでも成長が見込まれるため、戦略を策定し、拡販を図る。

水素分野への取り組みについて

2020年10月、NEDOによる「超高圧水素インフラ本格普及技術研究開発事業における、水素ステーションのコスト低減等に関する技術開発」及び「液化水素用大型バルブの技術開発」を通じた取り組みが評価され、経済産業省より「ゼロエミ・チャレンジ企業」の1社として選定された。



2021年2月、水素分野におけるグローバルな連携や水素サプライチェーンの形成を推進する新たな団体「水素バリューチェーン推進協議会」に加入。

＜パッケージユニット型水素ステーション事業の状況＞

2012年	水素ステーション用バルブの製造・販売を開始
2018年	長坂工場に自家用設備として水素ステーションを建設
2020年4月	パッケージユニット型水素ステーション事業に参入

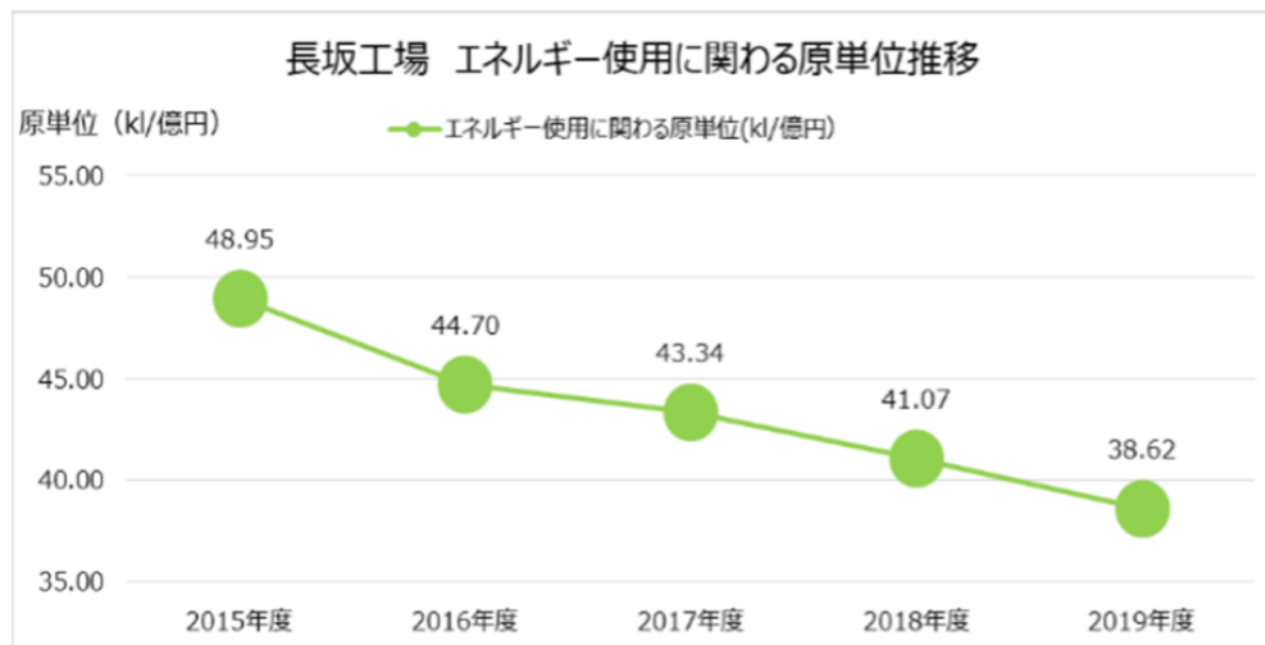


- 国内市場では、複数のステーション案件に入札したものの、受注には至らず。
- 海外向け案件で、機器ユニットを受注。
- キッツパッケージユニットの特徴を活かせる案件を中心に受注を目指す。

長坂工場 エネルギー管理優良事業者等表彰を受賞

長坂工場の省エネルギーへの取り組みと実績が評価され、関東経済産業局から「エネルギー管理優良事業者等関東経済産業局長表彰」を受賞。

原単位実績ベースで、前年度に対して、エネルギー3%削減、水1%削減、廃棄物3%削減という目標を設定。環境マネジメントプログラムの運用、コンプレッサーの更新に合わせた運用改善などを実施し、継続的な省エネルギー活動を推進した結果、5年間平均でエネルギー原単位を5.7%削減することができた。



5年度間平均でエネルギー原単位を5.7%改善



1 2020年12月期決算の概要

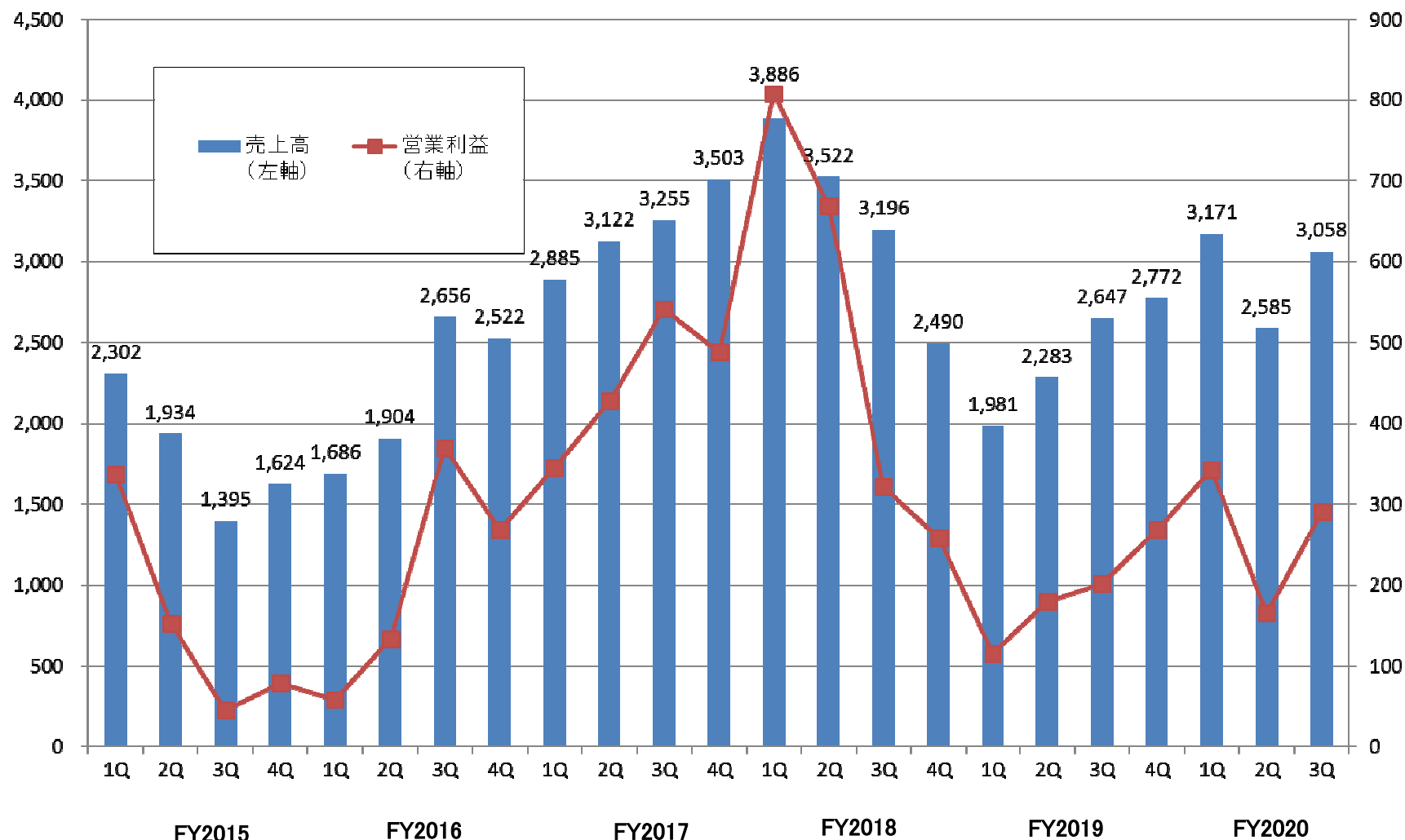
2 2021年12月期計画

3 最近のトピックス

-補足データ-

四半期業績推移(半導体向け)

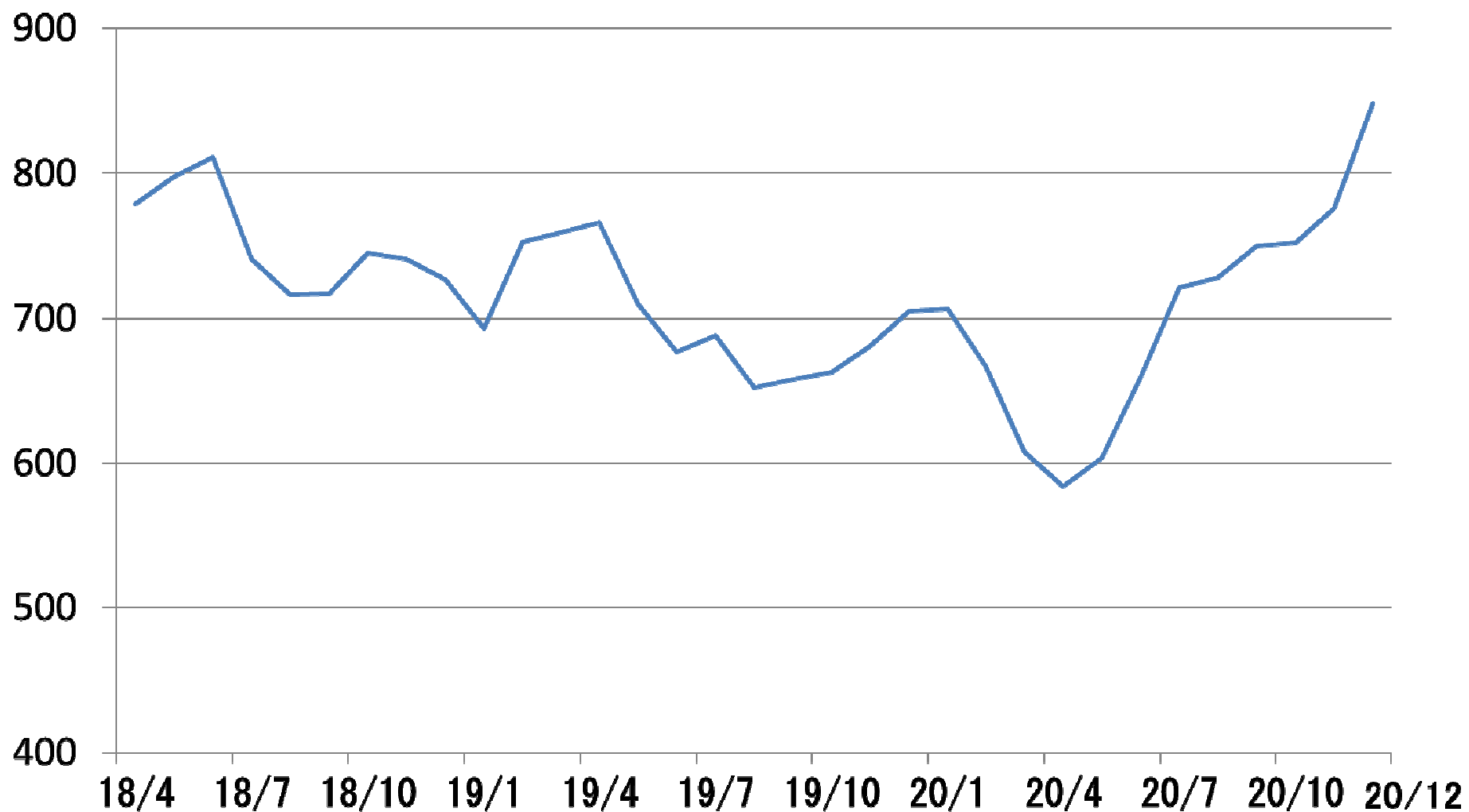
(百万円)



- ・半導体向け製品を製造・販売する株式会社キッツエスシーティの売上高・営業利益を四半期(3ヵ月)毎に表示。
- ・連結消去前のため、連結決算数値とは差異があります。

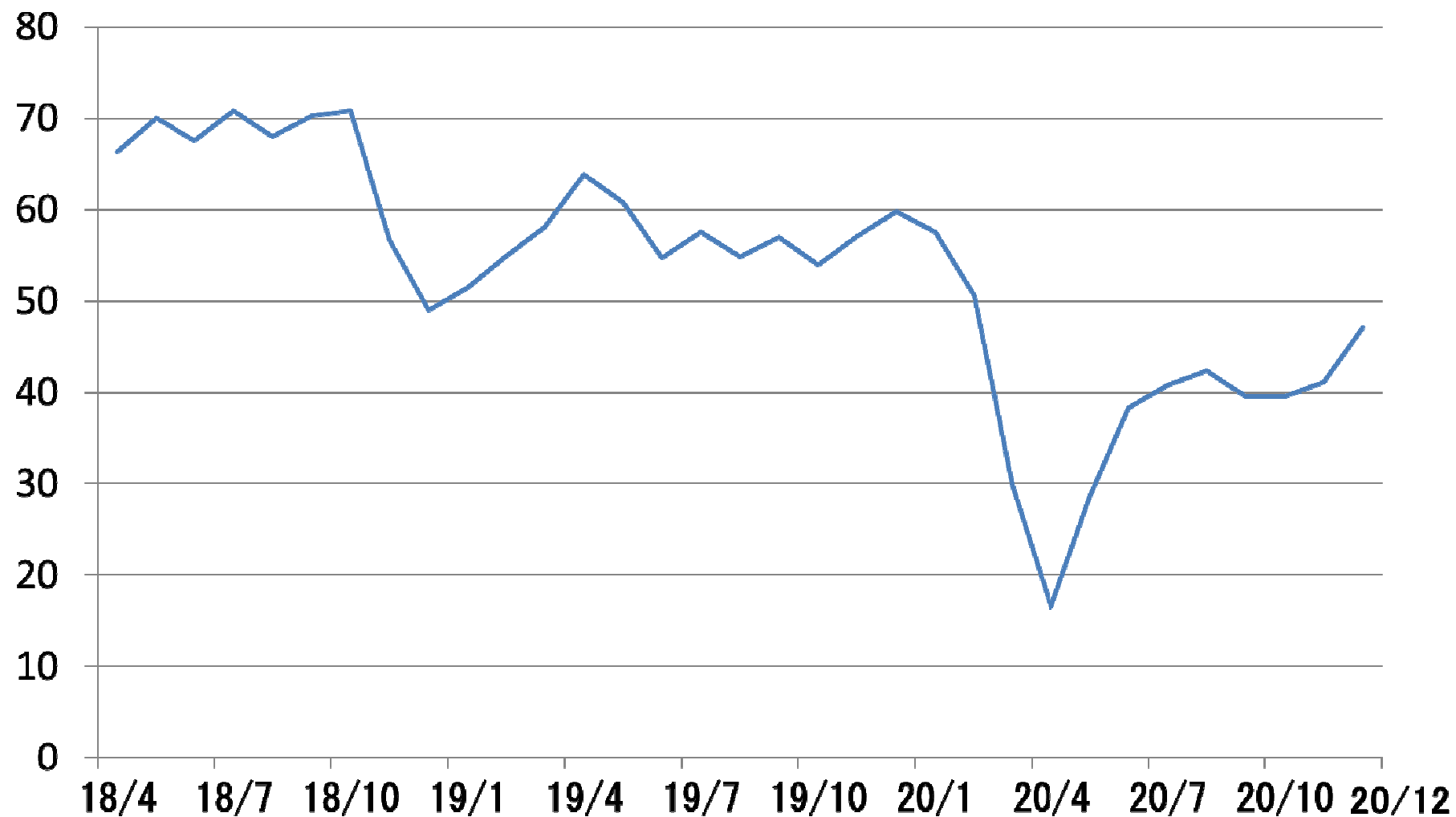
電気銅建値推移

(千円/ton)



原油価格推移

(USD/バレル)



A large, blue, stylized "KITZ" logo centered on the page. The letters are thick and blocky, with a slight shadow effect.

ご清聴ありがとうございました。